

the beginning

ここには、私を育ててくれた愛情がある
みんながカヌーに親しめる土壌がある
この町こそ、私の原点

原点

ロンドンオリンピックがゴールじゃない

正直に言えば、今はまだオリンピックの舞台でトップを競うレベルにはありません。まだまだ足りないところだらけ。スピードも、持久力も、水をかく力強さも…。今後、課題を克服するためのトレーニングに集中して取り組みます。もつとレベルを上げ、万全の状態の本戦にのぞみたいと思っています。

小さい頃からずっと目標にしていた「オリンピック出場」。でも、実現したからといって、そこがゴールなわけではありません。オリンピック出場を果たしたら、今度は「決勝に進出したい」、その次には「メダルに手を届かせたい」。…。そんな風に一つの目標達成は、また、新たな目標へのスタートラインでもあるんです。

ロンドンで全ての目標が達成できるとは思っていません。次の大会、次の次の大会もあります。それらに向けて、また一歩一歩、階段を上がっていき

と思っています。

私はこれまで、日本のトップ選手たちの背中をひたすら追いつけてきました。必死で練習して、でも追いつけなくて…。くやしい思いもしましたし、きつい時もなくさんありました。

そんな自分が、徐々に「追われる立場」になってきたのを感じています。私にとっての北本忍さんのように、選手としてだけではなく、人間としてもお手本となるような存在になれたら。次に続く子どもたちが、あこがれるような選手になれたらいいなと思っています。

次の世代に伝えたいこと
数え切れないほどある

オリンピック出場という一つの目標。スポーツ選手にとって、誰もが一度は夢を見る舞台です。私がそれを成し遂げることができたのは、歩んできた道のりの途中途中で、たくさんのお会いに恵まれたからでした。この町でカヌーと出会えたこと。カヌーを教えてくれた人、一緒に頑張ってきた仲間、応援してく

れる人、支えてくれる人、背中を押してくれる家族…。私が進むべき道を指し示してくれた、そんな多くの出会いがあったからこそ、今の私があります。皆さんに「恩返し」をしたい気持ちでいっぱいなんです。

カヌーを通して知った「出会いの大切さ」や、自分が学んだこと、知ったこと、重ねた経験、自分自身が変わったこと…。次の世代に伝えていきたいことが、数え切れないほどあります。

今度は私が伝える番。カヌークラブとかスポーツ施設の指導者、中学・高校のカヌー部顧問など、形は何でもいいです。私にカヌーの楽しさを教えてくれた漆畑典子さんのような存在に、いつかになりたい…。それが私の理想なんです。

これからも、何らかの形でカヌーと関わっていききたいし、それこそが自分が歩むべき「約束の道」なんだと思っています。私にとってカヌーは、「夢」であり「人生」であり「相棒」みたいなもの。これからも私は、カヌーとともに生きていきます。

写真で振り返る「大村朱澄選手ロンドンオリンピック出場までの軌跡」を町民ギャラリーと文化会館で開催します。生涯学習のひろば(30ページ)に日程を掲載しています。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

11月16日、自主トレーニングを終えた普段着の朱澄さんをインタビュー。その気さくな性格そのまま。屈託のない笑顔がまぶしかった。

特集 約束の道 大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符 終